

# 自営業婦人の妊娠時における健康管理に関する研究

森 一 郎 (鹿児島大学医学部・産婦人科)  
柚 木 角 生 (鹿児島県衛生部)  
池 田 富 士 雄 (国立鹿児島病院・産婦人科)  
前 嶋 良 裕 (鹿児島県立大島病院・産婦人科)  
何 沢 智 恒 (鹿児島県立鹿屋病院・産婦人科)  
三 原 敬 (宮崎市保健所)

勤労婦人の妊娠・分娩・産褥については、母体保護の立場から、労働基準法によって健康管理が行われ、いろいろ施策がたてられているが、加えて職種も多様であるので、その実態はよくわかっていない。あるいは過酷な労働条件下にあって、母児にさらに影響が及んだりまた最悪の場合として母児が不幸な転帰をたどることがあるかも知れない。

そこで、まず、分娩を終えた自営業婦人について、妊娠・分娩・産褥の実態調査を行うとともに、自営業妊婦に対しコンピュータドックを利用して妊娠中の健康管理の検討を行ってみた。

## I) 分娩終了後の自営業婦人についての妊娠・分娩・産褥時の実態調査

本年度はこれらの実態調査に使用するアンケートの質問項目等の作製をするため、以下の26項目の質問項目を試作し検討した。

- 1) 氏 名:
- 2) 年 令:
- 3) 職 業: 主人と本人について、とくに本人に対しては、主婦、共働き(職種)、自営(農業、商業、袖業、理・美容、その他)、内職およびパートの種類、1日の勤務時間等についての質問
- 4) 家族構成: 子供の数、同居人
- 5) 生活環境: 住宅(坪)ー自宅、借家、アパート他(階)、自宅兼職場 ー、生活状態、居住地(県内、里帰り)
- 6) 妊娠・分娩の既往歴
- 7) 妊娠に気づいて受診までの期間
- 8) 妊娠届出の有無
- 9) 母子手帳交付の有無
- 10) 妊娠中の受診の状況

- 11) 妊娠保健指導の受診状況
- 12) 母親学級の受講状況
- 13) 妊娠中の異常(例えば、腹部緊張、出血など)に気付いてから受診までの期間
- 14) 家事以外の労働時間
- 15) 妊娠中の家事以外の労働量の非妊時との比較
- 16) 家事以外の仕事の内容
- 17) 工作中的の休養状況
- 18) 工作中的の仮眠の有無
- 19) 仕事を休んだ時間(妊娠中および産後)
- 20) 分娩場所
- 21) 自宅より最も近い産婦人科施設(診療所、病院)までの距離
- 22) 妊娠中に家事を手伝ってくれる人の有無と係累
- 24) 産褥中に家事および育児を手伝ってくれる人の有無と係累
- 25) 育 児
- 26) 分娩後の仕事の開始時期と量、および健康状態

以上の質問項目を用意し、自営業婦人、勤労婦人、主婦の妊娠中の健康管理状況および環境の相違点を知るために試作し、次年度より本アンケートによる実態調査の準備をした。

## II) 自営業婦人に対する妊婦コンピュータドックによる妊娠中の健康管理の検討

自営業婦人の妊娠中の健康管理を行うため、妊婦コンピュータドックの応用を検討してみた。妊婦コンピュータドックはTMC(Tokyo medical counseling)が開発したもので、初期用(妊娠2~3カ月、初診時)、中期用(4~

7カ月), 後期用(8~10カ月)がある。妊娠検診時に以下の質問事項を妊婦に記入させるとともに, 検診所見を主治医が記入したうえTMCに郵送する。これらの質問事項および検診所見をTMCのコンピュータで処理し, 主治医に対しては現在の妊娠の状況および注意点と起こりうる異常分娩の予測を, 妊娠に対しては現在の妊娠の状況および注意点を返送するシステムである。

#### 1) コンピュータドックの質問項目

コンピュータドックの質問項目は, 表1に示す項目で, 1~6までの項目は妊婦に記入させ, 7の検査所見は主治医が記入する。

#### 2) コンピュータドックの結果表の項目

コンピュータドックにより回答されてくる結果の項目は, 表2に示す39項目で, 妊娠合併症13項目, 異常妊娠(現症)9項目, 異常分娩予測15項目, その他の2項目についてチェックされてくる。

#### 3) コンピュータドックのプロジェクトチームが行った500例の妊婦について

妊娠中にコンピュータドックで予測した結果が実際の分娩でどのような結果になったかをみるため, 表3に示す感度, 特性, 的中率の算定法で調べてみたところ, 表4のように, 的中率は, 90%以上の中していたものが全体の約半数で, 80%以上の的中は約90%あって良好な成績をえた。また, 感度では結果表項目(39)中, 感度60%以上を示したものが8項目で, これらの項目は比較的予測しやすく, 感度20%以下は5項目で, これらの項目は妊娠中の所見では予測が困難であることを示している。

#### 4) コンピュータドックのわれわれの経験

##### a) 妊婦のうけとめかた:

実際に, コンピュータドックを使用した妊婦のうけとりかたをみるため, 22例に使用後のアンケート調査を行ったところ, 表5のような結果で, 経済的なものを除けば妊娠管理法としては有用であると思われる。

##### b) メリット:

われわれがコンピュータドックを実際使用して感じた長所を表6に示した。

##### c) デメリット:

同じく短所を表7に示した。

##### d) 成績:

本年度にコンピュータドックを使用した58例(自営業婦人の職種は商業6例, 農業関係2例, 製造業関係2例, 袖業1例, 洋裁業1例)であった。これらについて以下結果を述べる。妊娠合併症が認められたものは, 本群で4例(30.0%), 主婦は29.0%, 勤労婦人0であった。次に, 妊娠中なんらかの自覚症状を認めたものは, 本群で5例(41.7%), 主婦52.6%, 勤労婦人50%で低率の傾向を示した。また妊娠中何らかの他覚的異常所見がみられたものは11例(91.7%)で, 主婦55.3%, 勤労婦人75.0%に比べ高率の傾向が認められたが, これらの異常所見のなかで妊娠中毒症が9例を占めていた。また, コンピュータによる本群の異常分娩の予測は11例(91.7%)で, 主婦68.4%, 勤労婦人75%に比べ高率の傾向を示した。しかしながら, 分娩を終えた8例について予測された異常が実際に起った例は, 本群では3例(37.5%)で, 主婦36.0%, 勤労婦人37.5%とほとんど差は認められなかった。このことは妊娠中の主な異常所見である妊娠中毒症などは, 妊娠中に指摘されて生活指導および薬物療法などで改善され, 実際の分娩の時にはほとんど異常が出現しなくなるためと考えられる。自営業婦人の妊娠中の管理にコンピュータドックを使用した結果では, 今のところ例数が少ないが, 主婦, 勤労婦人に比べ, 自覚症状を訴えるものは少ないのに他覚的異常所見が認められることが多かったが, これらに適切な妊娠管理を行えば, 実際の分娩時にはほとんど異常が起こっていないので, 自営業婦人の妊娠管理には有用な一法ではないかと考えられる。

表1. コンピュータドックの質問項目

1. 既往歴
2. 家族歴
3. 自覚症状 (一般症状)
4. 妊娠前の出血状態
5. 妊娠中の状態 (出血, 帯下 etc.)
6. その他
  - 年齢 最終月経
  - 身長 非妊時体重
  - 妊娠・分娩歴
7. 検査所見
  - 体重, 子宮底長, 腹囲
  - 浮腫, 尿検, 血圧
  - 児心音, 胎位, 胎向
  - 血色素量

表3 感度, 特性, 的中率

		分娩結果	
		有病	無病
スクリーニング	陽性	a 真陽性	b 偽陽性
	陰性	c 偽陰性	d 真陰性

$$\text{感 度} = \frac{a}{a + c}$$

(false-negativeの逆尺度)

$$\text{特 性} = \frac{d}{b + d}$$

(false-positiveの逆尺度)

$$\text{的 中 率} = \frac{a + d}{a + b + c + d}$$

表2. 結果表項目

妊 娠 合 併 症													そ の 他			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13				
心臓病	腎臓病	肝臓病	消化器病	結核	呼吸器	甲状腺疾患	糖尿病	高血圧	出血素因	貧血	性器疾患	アレルギー	血液不適合			
妊 娠 ( 現 症 )																
		14	15	16	17	18	19	20	21	22						
		つわり・阻害	悪阻	胎動異常	後期中毒症	後期中毒症	羊水過多	骨盤位置	横位	多胎	仰臥位低血	圧症候群				
		異 常 分 娩 予 測														
23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
流産	死産	胎内死亡	C P D	妊娠中毒症	特殊妊娠中毒症	予定日超過	分娩時出血	分娩ショック	早期破水	遷延分娩	巨大児	低体重児	先天異常	新生児異常	神経質	肥満

表4 プロジェクトチームの行なった結果

(500例)

的中率

的中率	項目数	%
90%以上	71	55.9
80~90%	28	22.0
70~80%	10	7.9
60~70%	16	12.6
60%以上	2	1.6
計	127	

感 度

感度60%以上	感度20%以下
早 産	予定日超過
巨大児	出 血
貧 血	新生児仮死
低体重児	胎内死亡
流 産	遷延分娩
妊娠中毒症	
多 胎	
新生児異常	

表5 コンピュータドック使用後の感想(22名)

	はい	いいえ
1. コンピュータドックを利用して良かったか	90%	9.1%
2. 質問事項がむずかしかったか	0	100
3. 解答がわずらわしかったか	0	100
4. 結果表が役立ったか	83.7	14.3
5. 結果表をみてかえって不安になったか	0.0	100
6. 次回妊娠にもコンピュータドックを利用したいか	75.0	25.0
7. 1組12,000円は高いと思うか	90.9	9.1

表6 産科用コンピュータドックの長所

1. 問診のもれ防止及び手間の省略  
(特に受診者の多い医療機関)
2. 妊婦の状況把握
3. 異常の見落とし防止
4. 異常の早期予測
5. High risk pregnancyの選出  
(特に専門医のいない地域)
6. 具体的に個人に適した生活・保健指導

表7 産科用コンピュータドックの短所

1. 感度の悪いものがある
2. 治療に対する変化にそくした解答なし  
(例) 浮腫に対し利尿剤投与

↓  
体重減少

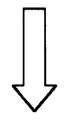
↑  
(結果) 計測の不正確又は胎児発育遅延

3. 分娩直前の変化に対応した解答なし  
(例) 先進部の骨盤腔内陥入

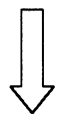
↓  
腹位及び子宮底長の減少

↑  
(結果) 計測の不正確又は胎児発育遅延

4. 結果表を受け取るまで10~14日を要す
5. 高価である



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



勤労婦人の妊娠・分娩・産褥については、母体保護の立場から、労働基準法によって健康管理が行われ、いろいろ施策がたてられているが、加えて職種も多様であるので、その実態はよくわかっていない。あるいは過酷な勤労条件下にあって、母児にさらに影響が及んだりまた最悪の場合として母児が不幸な転帰をたどることがあるかも知れない。